

今年実現しそうな訪日外国人旅行者2,000万人

ポイント① 7、8月は年率2,200万人

訪日外国人旅行者数の増加傾向が続いています。7-8月平均を年換算すると、2,200万人以上に上ります。旅行シーズンなので高めとも思われますが、昨年は7-8月平均と9-12月平均はほぼ同じでした。今年の9-12月も7-8月平均と同じならば、2015年合計で2,000万人を超えそうです。政府は2020年までに2,000万人実現との目標を2016年に前倒しましたが、1年早く実現されそうです。

一方、日本人の出国者数はここ数年、減少気味です。円安で海外旅行が割高になったことや、中韓との関係緊張などが背景にあると思われますが、そんなに外国人旅行者が日本に来るのなら、国内旅行もおもしろいのではないかと考える人が増えているのかもしれない。

ポイント② インバウンド消費のインパクト

訪日外国人旅行者の日本国内支出、いわゆるインバウンド消費も増大が続いています。一方、日本人旅行者の海外での支出（ここではアウトバウンド消費と呼びます）は減少傾向です。インバウンド消費とアウトバウンド消費の差が日本のGDP（国内総生産）を押し上げます。今年4-6月期の名目家計最終消費支出（前年同期比+0.10%）に同+0.36%分の押し上げ効果があったと計算され、インバウンド消費は無視できないインパクトを与えています。

ポイント③ 投資や雇用へもプラスの影響

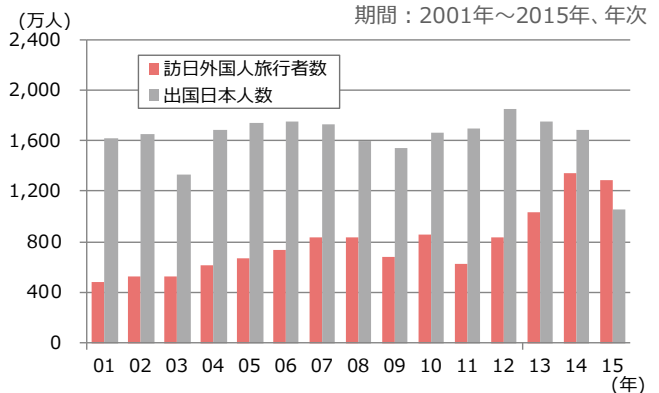
政府は将来的には訪日外国人旅行者数3,000万人を目指していますが、今の勢いならば近い将来に実現できそうな数字です。ただ、受け入れ態勢の拡充が必要です。

例えば、ホテルの客室稼働数は全国的に上昇傾向にあり、東京、大阪のシティホテルでは客室稼働率が1月以外80%以上で推移しています。訪日外国人の増加で東京のホテル稼働率は20%以上押し上げられているという推計もあります。ホテル増設、観光に携わる人材確保など、インバウンド消費から関連投資・雇用の増大へと、プラスの影響がさらに広がりつつあるようです。

重要
イベント

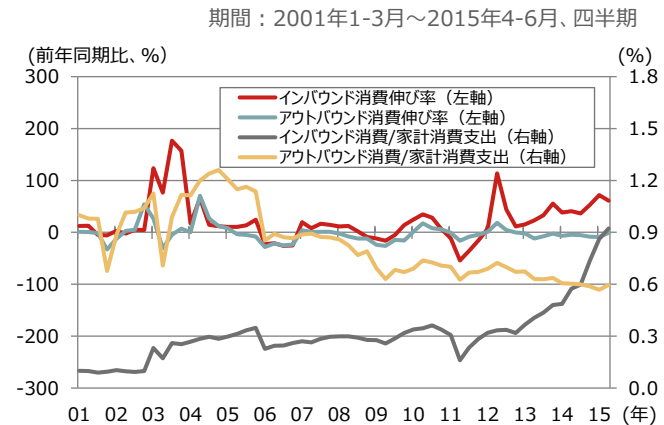
10月28日	商業販売額（9月）
10月30日	宿泊旅行統計調査（9月）
10月30日	訪日外国人消費動向（7-9月）

図1：訪日外国人旅行者数と出国日本人数



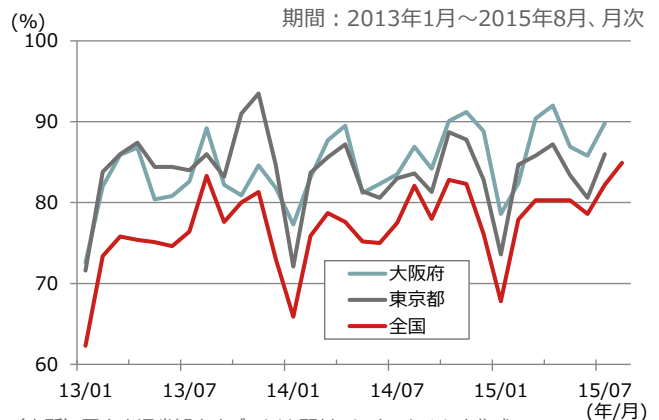
(出所) 日本政府観光局データより野村アセットマネジメント作成
(注) 2015年は1-8月累計

図2：インバウンド・アウトバウンド消費の推移



(出所) 内閣府データより野村アセットマネジメント作成

図3：シティホテルの客室稼働率



(出所) 国土交通省観光庁データより野村アセットマネジメント作成
(注) 東京都、大阪府の直近値は2015年7月

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。